

# 荻野吟子・志方之善と北海道

— 吟子没後百年の<sup>かみおか</sup>神丘、<sup>せたな</sup>瀬棚を訪ねて —

27歳の<sup>しかたゆきよし</sup>志方之善は、北海道にキリスト教徒による「理想郷」の建設を夢見る青年でした。キリスト教伝道のため関東を訪れた際、40歳の荻野吟子と出会います。やがて、二人は、周囲の大反対を押し切って結婚し、北海道へと旅立つことになるのです。

吟子が渡道してからおよそ120年、その足跡をたどります。

## 之善、北海道インマヌエルの地へ



インマヌエルの丘からの眺望

明治24年（1891）、之善が渡道します。入植の地に、新約聖書で「神われらと共にいます」の意の「インマヌエル」と名付けました。

今でこそ広大な農地が広がるインマヌエル（現今金町神丘）ですが、当時はまったくの未開の地でした。之善は、わずか17歳の丸山要次郎とたった二人でこの地に入りました。



## 神丘発祥の地

之善らが初めに居を構えた地は、現在、「神丘発祥の地」として整備されています。之善は、明治29年頃、吟子をインマヌエルに迎え入れます。

# 日本キリスト教団利別教会<sup>としべつ</sup>

之善らは、厳しい北海道の自然と闘いながら開拓を進めました。人が集るようになると、之善は、寺子屋式の教育場や教会の設立にも力を注ぎました。

「日本キリスト教団利別教会」は、之善らキリスト教の組合派の人々が建てた教会です。今でも之善とともに開拓に従事した先人の子孫の方々が集います。

相良展子牧師と神丘地区の皆さん



# もう一人の熊谷出身の偉人、天沼恒三郎<sup>あまぬまつねさぶろう</sup>



聖公会派が建てた今金インマヌエル教会

インマヌエルの開拓では、もう一人熊谷出身の人物が活躍します。市内田島出身で、<sup>せいこうかい</sup>聖公会熊谷教会（現八木橋そばの熊谷聖パウロ教会）に属していた天沼恒三郎です。之善と意気投合した恒三郎は、一族で入植します。道路や教会の建設などインマヌエルの<sup>いしずえ</sup>礎を築くために尽力しました。



『今金町史』上巻より

志方之善や天沼恒三郎ら開拓民の偉業は、現在でも神丘の人たちによって、顕彰されています。

神丘に立つ案内板



## 吟子、瀬棚で医師開業

吟子のインマヌエルの生活は長く続かず、之善とともに明治29年（1896）には国縫<sup>くぬい</sup>へ、翌年には瀬棚へと移ります。当時、瀬棚はニシン漁で栄えていた漁村でした。吟子はここで再び医院を開業します。

現在瀬棚では、吟子の名はお酒の銘柄になるなど、町の顔として町民に親しまれています。

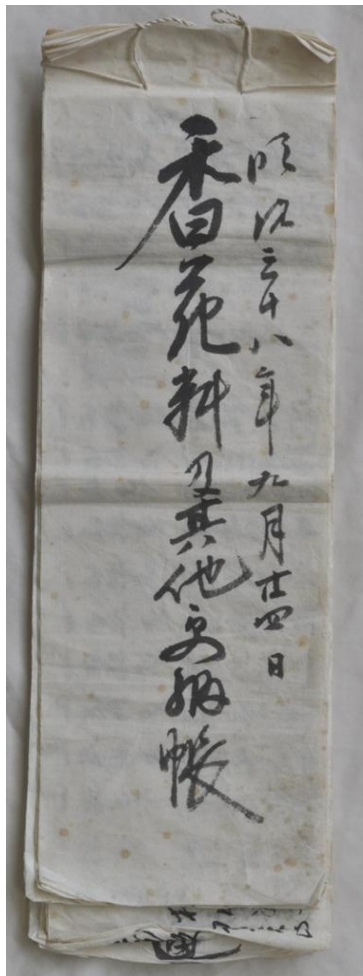


瀬棚のシンボル 三本杉岩



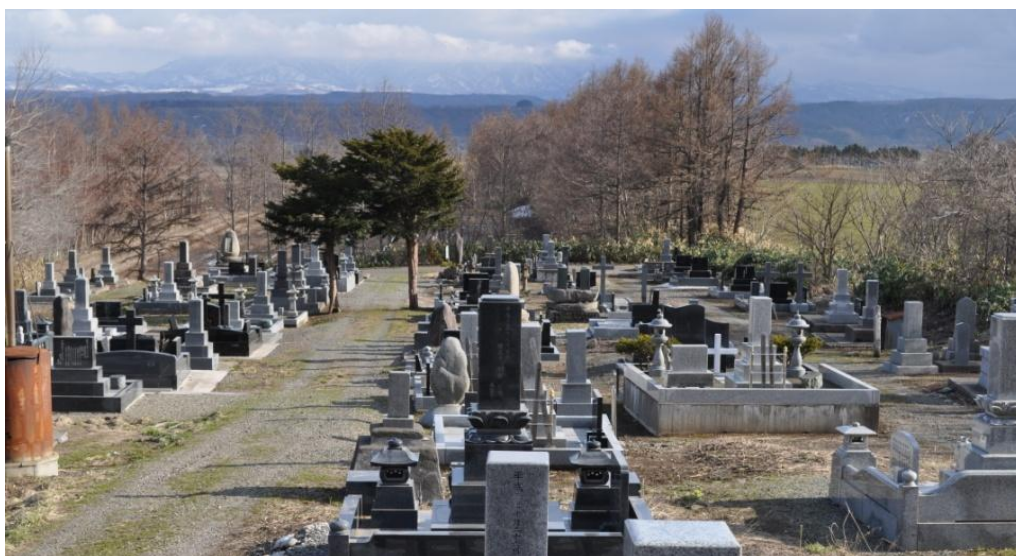
せたな町特産純米酒 吟子物語

## 之善の死と吟子の帰京



之善は、牧師を目指し京都の同志社に再入学します。一方で、吟子は、大病をして熊谷に身を寄せます。明治38年(1905)、牧師として戻ってきた之善を追って、7月に無理をして瀬棚に戻りますが、8月に今度は之善が倒れ、9月に帰らぬ人となりました。之善は、インマヌエルの同志とともに神丘の共同墓地に眠ります。その3年後、吟子は、姉友子の熱心な誘いにより帰京しました。

之善葬儀の際の香花料等受納帳  
(せたな町瀬棚郷土館蔵)



神丘開拓墓地（インマヌエルの丘）



志方之善の墓